

～田んぼまわりの生き物調査～

8月25日（土）朝から子供23人と大人41人の参加のもと、五行川に流れ込むちび川において、魚類を捕獲して生き物調査を行いました。（7年目の調査）

今年初めて調査する、ちび川は、V柵護岸でマコモや水草が生え、土砂溜まりができ、水田魚道を設置しているところで、遡上調査でもフナ、タモロコ、ドジョウ、タニシ、エビ、ザリガニ、ヤゴ等を多数確認しています。指導者の中荻さんから、水田魚道は、魚たちが産卵のために田んぼに遡り、産まれた稚魚が田んぼで成魚になって川に戻る架け橋になっている話を聞きました。

子供達は、川に入り、網を持って上流に向かい、魚をすくって、バケツに入れていました。県内では少なくなっているフナが多量に捕れ、絶滅危惧種のジュズカケハゼやタガメが複数見付き、豊かな水路環境を確認しました。

公民館にて、アドバイザーの指導を受けて、捕獲した魚の名前を調べ、絵に描いて切り抜き、模造紙に貼って生きものマップをつくりました。参加した皆さんは、田んぼまわりの大切さを認識し、生態系保全活動の必要性を感じたようです。

お楽しみタイムには、役員有志の手作り焼きそば、かき氷、ドジョウ唐揚げや捕獲したエビの真っ赤な唐揚げがふるまわれ、田んぼで捕れたドジョウを食べたことがない子供もおいしいと食べていました。（黒須記）



海老（チビ）川での調査風景



胴長隊も奮戦しました



水田魚道「平成26年設置」



遡上調査（フナ100匹・タモロコ60匹・ドジョウ20匹）

今年の生きもの調査場所は、五行川に直結する排水路で、魚類を増やそうと、平成26年7月に水田魚道を設置しました。水路は土砂が各所の溜まり、水草（ササバモや葦）が繁茂していて魚たちには比較的住みやすい環境と言えます。当日は水量が比較的多いことから、2班に分かれて調査をしました。捕れた魚類は、ドジョウ・フナ・タモロコ・カワムツ・ギバチ・ジュズカケハゼで、特にフナが多かったです。甲殻類は、アメリカザリガニとカワリヌマエビの仲間でいずれも外来種です。水生昆虫は、タガメ・タイコウチ・ミズカマキリで、特にタガメは4匹とうれしい数です。このような環境は県内でも極少です。



かわいいフナたち



ジュズカケハゼ



ドジョウを捕ってくれた黒須さん



唐揚げ造り名人のお母さん



初めてドジョウを食べました



生きものマップづくり



タガメを描きました



成果品



調査参加者

猛暑の中、多くの方が参加しての生きもの調査でしたが、期待通りの成果でした。今年は高学年の皆さんに名前や数を調べてもらいました。素晴らしいふるさとの環境を活用した自然体験学習に敬意を表しますと共にこれからの継続を期待いたします。

環境カウンセラー 中荻 元一